

(様式第1号)

みなとSDGsパートナー 登録申請書

2022年7月11日

国土交通省港湾局長 殿

みなとSDGsパートナー登録制度実施要綱第4条第1項に基づき、下記のとおり登録を申請します。

1. 概要

企業・団体名	東京湾大感謝祭実行委員会
所在地	東京都港区虎ノ門3-1-10 第2虎の門電気ビル4F（一般財団法人みなと総合研究財団内）
代表者役職・氏名	実行委員長・田久保雅己
担当者連絡先	電話：.03-5408-8298
	メール：fes@tbsaisei.com
ウェブサイトURL	https://tokyobayfes.jp/ http://tbsaisei.com/

2. 港湾関係企業等としての事業の概要


















<p>平成25年11月に、東京湾の環境再生に向けた活動や協働の輪を広げることを目的として、官民の多様な関係者により構成される「東京湾再生官民連携フォーラム」が設立された。</p> <p>当委員会が主催する「東京湾大感謝祭」は、当該フォーラムのプロジェクトの一つとして平成25年から開催されており、都市に住む市民や企業、団体と国や自治体が、ともに海の再生を考え、行動するきっかけを提供する場となっている。</p>

3側面	SDGs達成に向けた重点的な取組	2030年に向けた指標
✓環境 □社会 ✓経済	東京湾の環境再生に関係する国、地方公共団体、関係業界団体、漁業協同組合、NPO法人等の幅広い関係者とのパートナーシップの下、「東京湾大感謝祭」の開催を通じて、海を起点にライフスタイルの転換を考え、行動するきっかけを提供する。	東京湾大感謝祭の後援及び協力団体並びに出展者を維持拡大し、少なくとも年に1回以上の開催を継続する。
✓環境 ✓社会 □経済	東京湾大感謝祭において、釣りやSUP等の海洋性レジャーの紹介、東京湾におけるSDGsに資する取組の紹介、東京湾における環境問題に関するトークショー等の幅広い世代を対象とした企画を実施することにより、東京湾の環境に係る普及啓発、地域社会の活性化、青少年の育成を推進する。	あらゆる世代の方を対象とした、東京湾の環境、水産、海洋性レジャーに関するプログラムを10個以上企画し、出展者数100団体、1回あたりの延べ来場者数10万人を目指す。
□環境 □社会 □経済		

SDGs達成に向けた具体的な取組

カテゴリー	チェック項目	具体的な取組 (公的な取得認証があれば、併せて記載してください。)	主なSDGs (17ゴールと169ターゲット) 関連項目														
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
																	
1	人権・労働	【差別の禁止】 ・性別、年齢、障がい、国籍、出身などによる差別を防ぐ教育体制や相談体制を整備し、差別がないことを確認している					5.1 5.2 5.5			8.5 8.7 8.8		10.2 10.3					16.1 16.2 16.7
2		【ハラスメント禁止】 ・セクハラ、マタハラ、パワハラ等のハラスメントを防ぐ、ルール・教育・相談体制を整備している					5.1 5.2 5.5			8.5 8.8							16.1
3		【労働時間】 ・過度な長時間労働の防止に取り組んでいる								8.5 8.8							
4		【外国人労働者】 ・外国人労働者に対する差別、人権侵害がないことを確認している				4.4				8.5 8.7 8.8		10.2 10.3					
5		【労働安全衛生】 ・作業中の事故等を防ぐため、安全で衛生的な労働環境の整備に取り組んでいる			3					8							
6		【メンタルヘルス】 ・労働者のメンタルヘルスを良好に維持できるように対策に取り組んでいる			3												
7		【ダイバーシティ経営】 ・多様な人材（女性、外国人、障がい者、高齢者等）が、十分に活躍できる環境の整備に取り組んでいる					5.1 5.5			8.5		10.2 10.3					
8		【人材育成】 ・適切な能力開発、教育訓練の機会を従業員に提供している				4	5.5			8	9						
9		【公正な待遇】 ・雇用形態に関わらず、同一労働同一賃金等の原則に沿って対応している					5.5			8.5		10.2 10.3					
10		【健康経営】 ・従業員への健康投資による生産性の向上等に取り組んでいる			3					8							
11	環境	【3 Rの推進】 ・事業活動等から発生する廃棄物の管理及び処理を適切に行う等、3 R（リデュース、リユース、リサイクル）の推進に取り組んでいる											11.6	12.4 12.5		14.1	
12		【エネルギー】 ・自社のエネルギー使用量を把握し、エネルギー利用の効率化を進めている							7.3						13		
13		【温室効果ガス】 ・自社の温室効果ガス排出量を把握し、排出量の削減を進めている							7.2 7.3					12.4	13.3		

カテゴリー	チェック項目	具体的な取組 (公的な取得認証があれば、併せて記載してください。)	主なSDGs (17ゴールと169ターゲット) 関連項目																
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
																			
14	【有害化学物質】 ・法令等で規制されている有害化学物質を把握し、使用量の抑制及び適切な使用に取り組んでいる				3.9			6.3					11.6	12.4					
15	【生物多様性】 ・自社活動が生物多様性や生態系に悪影響を及ぼさないよう配慮している	実行委員会事務局における備品や消耗品については環境に配慮した調達を行っている。(グリーン購入)						6.6									15		
16	【水の管理】 ・水資源の利用状況を適切に管理し、利用効率の改善に取り組んでいる	生活排水と東京湾の水質に関する情報発信を東京湾大感謝祭の展示やステージを行っている。						6.4 6.6											
17	【環境マネジメントシステム】 ・ISO14001、または同等の環境マネジメント規格を取得している				3.9			6	7					12	13.3	14	15		
18	【環境情報開示】 ・環境の取り組みに関する情報を正しく開示している													12.6					
19	【再生可能エネルギーの利用】 ・再生可能エネルギーの利用に取り組んでいる	温暖化対策に関する情報発信を東京湾大感謝祭の展示やステージを行っている。							7.2						13				
20	【天然資源の持続的利用】 ・天然資源の持続的利用に配慮した調達に取り組んでいる													12.2	13	14	15		
21	【製品・サービスの安全性】 ・製品・サービスの安全性を確保するための仕組みを構築している				3.9									12.4					
22	【品質保証】 ・品質のよいモノやサービスを提供するための仕組みを構築している										9								
23	【環境配慮】 ・環境に配慮した製品の開発・設計に取り組んでいる							6						12	13	14	15		
24	【社会課題解決】 ・社会課題を解決する製品・サービスの開発・展開に取り組んでいる	東京湾を起点にライフサイクルの転換を考え、環境に配慮して行動するきっかけを提供する場として2013年より毎年東京湾大感謝祭を開催している。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
25	【地域への配慮】 ・自社事業が地域に与える影響を把握し適切に対応している	東京湾における海洋環境の向上をめざし、周辺地域の市民や企業、団体、国、自治体と連携しながら取組を進めている。				4					9		11	12		14	15		17
26	【社会貢献活動】 ・寄付、ボランティアなど社会貢献活動に積極的に取り組んでいる	官民のSDGsアクション発表と交流の場「SDGs 東京湾」として市民、企業・団体と国・自治体とともに行動するきっかけPRなどに活用いただいている。				4							11			14	15		17
27	【地域資源】 ・地域資源を積極的に利用（地消地産、地産外商）している	水産品など東京湾の資源としたものを積極的に紹介し、感謝祭の会場でも展示や販売などを行っている。								8	9		11	12	13				

カテゴリー	チェック項目	具体的な取組 (公的な取得認証があれば、併せて記載してください。)	主なSDGs (17ゴールと169ターゲット) 関連項目																
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
																			
28	【内部管理体制】 ・SDGsの達成に向けた経営理念及び経営目標を社内で共有している									8	9								17
29	【法令遵守】 ・反社会的勢力の排除、汚職や贈収賄、不正競争行為の防止など法令遵守の考えが社内に浸透し、法令を確実に遵守する体制・仕組みを構築している	法令遵守は、委員会の信用や名誉を維持し活動をつづけるための基本原理として位置付けられ、常に実行委員会事務局で確認し実行委員長がチェックしている。																16	
30	【組織体制】 ・企業活動が社会・環境に及ぼす影響に対応する担当、専門部署などの体制を整備している	東京湾大感謝祭の役割や効果について委員会関係者全員で共有している。																16	
31	【ステークホルダーとの対話】 ・ステークホルダー(※)との対話により、自社の活動がステークホルダーに及ぼす影響を把握し、適切に対応している(※利害関係者：消費者、投資家等及び社会全体)	東京湾大感謝祭に参画している国、自治体、企業等と情報交換、情報共有を密に取っている。																16	17
32	【リスクマネジメント】 ・法令遵守、環境安全衛生、労働環境などに関するリスクを特定、評価し、マネジメントするプロセスを整備している																	16	
33	【社会的責任】 ・CSR (Corporate Social Responsibility: 企業の社会的責任) の考えに基づき企業活動が社会・環境に及ぼす影響に対して、責任を持った対応に取り組んでいる																	16	
34	【事業継続】 ・事故や災害などの発生における事業継続計画を立案している										9		11		13.1			16	
35	【事業承継】 ・事業承継に関する検討・対策を行っている									8	9								17

上記以外で設定した取組項目

独自に設定したSDGsに資する取組	具体的な取組	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
東京湾大感謝祭実施会場でのSDGs東京湾コーナー設置	SDGsの達成に向け、SDGsのゴールと照らし来場者に分かりやすく訴求。				4									13	14	15		

- 【記載留意事項】
- ・各カテゴリー毎に少なくとも1つ以上の項目に「具体的な取組」を記載して下さい。
 - ・今回の申請に合わせて、今後取り組む予定のものについても「具体的な取組」として記載頂くことが可能ですので、積極的に記載して下さい。
 - ・なお、今後取り組むものについては、「具体的な取組」の前に【予定】と記載してください。
 - ・「具体的な取組」には、チェック内容に関する具体的な取組を記載してください。
 - ・取組に関連する国際機関、国、県、市町村等の認証・認定等を取得している場合は、その旨を併せて記載してください。
 - ・「主なSDGs (17ゴールと169ターゲット) 関連項目」はあくまでも標準的なゴールとターゲット番号を記載したものです。個別の取組に合わせて必要に応じて適宜変更して下さい。

令和 5 年 8 月 21 日

SDGs 達成に向けた取組及び指標の進捗状況報告書

国土交通省港湾局長 殿

所在地： 東京都港区虎ノ門 3-1-10 第 2 虎の門
電気ビルディング 4F (一般財団法人 みな
と総合研究財団内)

名称： 東京湾大感謝祭実行委員会

代表者： 山縣宣彦

登録年月日： 令和 4 年 9 月 21 日

みなと SDGs パートナー登録制度実施要綱第 7 条の規定により、下記のとおり進捗状況を報告します。

3 側面	SDGs 達成に向けた重点的な取組	2030 年に向けた指標	指標の進捗状況
✓ 環境 □ 社会 ✓ 経済	東京湾の環境再生に関係する国、地方公共団体、関係業界団体、漁業協同組合、NPO 法人等の幅広い関係者とのパートナーシップの下、「東京湾大感謝祭」の開催を通じて、海を起点にライフスタイルの転換を考え、行動するきっかけを提供する。	東京湾大感謝祭の後援及び協力団体並びに出展者を維持拡大し、少なくとも年に 1 回以上の開催を継続する。	東京湾大感謝祭を 2022 年 10 月に開催した。
✓ 環境 ✓ 社会 □ 経済	東京湾大感謝祭において、釣りや SUP 等の海洋性レジャーの紹介、東京湾における SDGs に資する取組の紹介、東京湾における環境問題に関するトークショー等の幅広い世代を対象とした企画を実施することにより、東京湾の環境に係る普及啓発、地域社会の活性化、青少年の育成を推進する。	あらゆる世代の方を対象とした、東京湾の環境、水産、海洋性レジャーに関するプログラムを 10 個以上企画し、出展者数 100 団体、1 回あたりの延べ来場者数 10 万人を目指す。	プログラムは 13 個。(103%) 出展者数は 56 団体。(56%) 来場者は 6572 人 (6.6%) ※コロナ禍のため来場者数を制限し実施。
□ 環境 □ 社会 □ 経済			

令和 6 年 1 0 月 3 0 日

SDGs 達成に向けた取組及び指標の進捗状況報告書

国土交通省港湾局長 殿

所 在 地： 東京都港区虎ノ門 3-1-10 第 2 虎の門
電気ビルディング 4F（一般財団法人 みな
と総合研究財団内）

名 称： 東京湾大感謝祭実行委員会

代 表 者： 山縣宣彦

登録年月日： 令和 4 年 9 月 21 日

みなと SDGs パートナー登録制度実施要綱第 7 条の規定により、下記のとおり進捗状況を報告します。

3 側面	SDGs 達成に向けた重点的な取組	2030 年に向けた指標	指標の進捗状況
✓環境 ✓社会 □経済	東京湾の環境再生に関係する国、地方公共団体、関係業界団体、漁業協同組合、NPO 法人等の幅広い関係者とのパートナーシップの下、「東京湾大感謝祭」の開催を通じて、その魅力を発見し、変化する身近な環境に目をむける気づきと海を大切にしているきっかけの大切さを提供する。	東京湾大感謝祭の後援及び協力団体並びに出展者を維持拡大し、少なくとも年に 1 回以上の開催を継続する。開催にあたっては、「適正な規模での持続的な実施」を目指す。	東京湾大感謝祭を 2022 年 10 月に開催した。 2023 年（10/14, 15 開催）実施 2024 年（9/28, 29 開催）実施
✓環境 ✓社会 □経済	東京湾大感謝祭において東京湾における SDGs に資する取組の紹介、東京湾がもたらす恵やその資源、東京湾における環境問題に関するトークショー等の幅広い世代を対象とした企画を実施することにより、東京湾の環境に係る普及啓発、地域社会の活性化、青少年の育成を推進する。	あらゆる世代の方を対象として東京湾の環境の変化をとらえ、陸域、海域からまた港、水産、河川、水資源、気象等に関するプログラムを開催時のタイムリーなテーマに設定し、環境課題解決の取り組みを目指す。	開催プログラムにおいては、2023 年では、「どうする東京湾？」と題して、東京湾の課題を取り上げたパネルディスカッションの実施。 2024 年では、ステージ・展示テーマを「ブルーカーボンで脱炭素」とし、「購入者と学ぶ」ブルークレジット」の様々な事例を紹介した。また子供向けには、ブルーカーボンデジタル絵本の読み聞かせを行った。さらに、変化する環境について「東京湾と都市気象」をテーマに現状とその課題を探った。

SDGs 達成に向けた取組及び指標の進捗状況報告書

国土交通省港湾局長 殿

所在地： 東京都港区虎ノ門 3-1-10 第 2 虎の門
電気ビルディング 4F（一般財団法人 みな
と総合研究財団内）

名称： 東京湾大感謝祭実行委員会

代表者： 寺元 敏光

登録年月日： 令和 7 年 10 月 31 日

みなとSDGs パートナー登録制度実施要綱第 7 条の規定により、下記のとおり進捗状況を報告します。

3 側面	SDGs 達成に向けた重点的な取組	2030 年に向けた指標	指標の進捗状況
✓環境 ✓社会 □経済	東京湾の環境再生に関係する国、地方公共団体、関係業界団体、漁業協同組合、NPO 法人等の幅広い関係者とのパートナーシップの下、「東京湾大感謝祭」の開催を通じて、その魅力を発見し、変化する身近な環境に目をむける気づきと海を大切にしているきっかけの大切さを提供する。	東京湾大感謝祭の後援及び協力団体並びに出展者を維持拡大し、年に 1 回以上の開催を継続する。 湾岸周辺で開催される感謝祭と連携していき、影響力を高めていく。	東京湾大感謝祭を 2022 年 10 月に開催した。 2023 年（10/14, 15 開催）実施 2024 年（9/28, 29 開催）実施 2025 年（9/27, 28 開催）実施
✓環境 ✓社会 □経済	東京湾大感謝祭において東京湾における SDGs に資する取組の紹介、東京湾がもたらす恵やその資源、東京湾における環境問題に関するトークショー等の幅広い世代を対象とした企画を実施する。さらに、親子での参加が増え、子供たちが生き物や自然に触れ合うことで、東京湾の環境や水、自然に関する関心へのきっかけとなる企画展示などを次世代への働きかけを行っていく。	あらゆる世代の方を対象として東京湾の環境の変化をとらえ、陸域、海域からまた港、水産、河川、水資源、気象等に関するプログラムを開催時のタイムリーなテーマに設定し、環境課題解決の取り組みを目指す。	開催プログラムにおいては、2023 年、「どうする東京湾？」と題して、東京湾の課題を取り上げたパネルディスカッションの実施。2024 年では、ステージ・展示テーマを「ブルーカーボンで脱炭素」とし、「購入者と学ぶ」ブルークレジット」の様々な事例を紹介した。また子供向けには、ブルーカーボンデジタル絵本の読み聞かせを行

			<p>った。さらに、変化する環境について「東京湾と都市気象」をテーマに現状とその課題を探った。</p> <p>2025 年は、「ここにいる、生きている～消えゆく海藻の森に導かれて～(ハイライト版上映)」&ステージトークを行なった。他、さまざまな視点から東京湾への取組、環境への取組紹介を実施した。</p>
--	--	--	--